

# 令和2年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和3年5月1日  
学校法人 本郷学園 もみじ幼稚園

## 1. 教育方針

「幼児教育こそが大樹に育つための“根の教育”であり、自ら伸びようとしているその力を、いつくしみ育てることが幼稚園の役目である」（初代徳川宗敬園長の基本方針）

## 2. 教育目標

- ① 心身共に健康で、幼稚園生活を楽しむ
- ② 友達と仲良く遊ぶ
- ③ 自分で考えて行動する
- ④ いろいろなことに興味を持つ
- ⑤ 思ったことや考えたことなどを表現する

## 3. 具体的な目標（こどもの姿・保育者の指導内容）

### ① 先生が大好きになる 幼稚園が大好きになる

幼児期のこどもにとっては健康な心と体の育成は大前提である。幼稚園はこどもたちにとって家庭を離れた初めての集団であることをふまえ、まずは担任の先生に親しみを感じられるよう丁寧な対応をしていく。入園当初は保護者から離れられずともそれは自然な姿として温かく受け入れる。

幼稚園には地域の子育ての基地、という役目もある。子育ての専門家としての知識と経験を活かし、保護者に対しても大切なお子さんをお預かりしているという思いを忘れず相談には誠意をもって応じる。

### ② 好きな遊びを見つけて遊ぶ

もみじ幼稚園ではまずはこどもが夢中になって遊べることを目指す。

夢中になれる遊びを見つけられると、こどもたちは幼稚園でも安定し、徐々に周りへの関心を広げていく。自分に自信が持て友達と関わってみようとするようになる。

こども同士のやり取りの中では、思いの違いからトラブルになることも多いが、保育者はこういったことを、こども同士が他の存在を知り、相手にも自分と同じような思いがあることを知るきっかけととらえる。それぞれの思いに寄り添い、自分の思っていることを言葉で伝えあえるよう援助していく。

### ③ 主体的な取り組みをする

主体性を大切にする。好きな遊びだけでなく、指導計画に基づいた課題としての遊びにおいても、こどもたちが、（おもしろそうだな、やってみよう！）と思えるよう教材や課題、指導方法を工夫する。

年長組になると、運動会、こども会（劇の発表）といった大きな行事もあるが、保育者はこどもたちが（やらされている）と感じるのではなく（やってみたい!）と積極的に取り組めるよう活動の精選や指導を工夫する。

④ 自然の中でいろいろなこと興味をもつ

地域でも群を抜く大きな木に囲まれた豊かな自然を生かし、こどもたちがいろいろなことに興味を持てるよう

保育者も一緒に体を動かして遊びながら自然と関わる遊びや広い園庭での運動遊びに取り組んでいく。

自然物との触れ合いとしては、春と秋の虫探し。ダンゴムシ、コオロギ、セミや蝶を捕る。落ち葉で遊ぶ。お花を色水にして遊ぶ。やミカンやカキ、オシロイバナの種取りをして遊ぶ。などである。また、うさぎや金魚を飼っており、これらにエサをあげることを経験し、生き物への親しみや大事にしようとする気持ちも育てていく。

自然と触れ合い楽しく遊ぶ中で、なぜかな、といった科学の芽も育てていく。

4. 令和2年度 重点目標

① コロナ禍でも安全で成果ある保育活動を実施する。

文科省、厚労省、東京都の指導に従いつつ、安易に休園にしたり、活動を中止したりせず、行員の創意工夫により、子どもたちにとって今しかない幼児期を豊かなものにする、教育機関としての責務を果たす。

**【成果と評価】**

安全面では、文科省からの「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～学校の新しい生活様式～」に基づき、もみじ幼稚園において具体的にどのような消毒などを行うか、保育者たちが自分たちで具体的な実施を記した「もみじバージョン」を作成した。マニュアルの改訂に合わせ「もみじバージョン」の消毒も見直した。

**評価： A**

② 基本に振りかえる

①の実施について教育活動の何を実施し、何を省略していくか、を考えるうえで、「もみじ幼稚園」の教育目標「根の教育」とは何か、初代園長先生のことばを、今の私たちの保育の姿としてとらえなおす。

**【成果と評価】**

例年通りになりがちな行事を見直す1年となった。これは何のために行うのか、ここで大切なことは何か。この方法が一番良いのか などなど、幼児教育の基本、もみじ幼稚園の「教育方針」の確認を職員全員で行事のたびにたくさん話し合い見直し確認することができた。

職員間のコミュニケーション、意思疎通も大に行うことができた。

**評価： B**

5. 総合的評価：B

## 6. 今後取り組むべき課題

### ① さらなる保育内容の見直し

令和2年度においては「コロナ版」としてもみじ幼稚園の行事を見直した。令和3年度は、もみじ幼稚園においては「3年間の保育」の中で、何を計画し実施しているかを調べて教員間で共有する。

### ② 自己評価を実際の保育に生かす

令和2年度は自己評価を作成したのみだった。令和3年度は自己評価は毎日の保育を振り返り、よかったこと、さらに努力することを明らかにするためのものであるから、自分たちの保育に自信を持つことも大事だと思われる。そのあとのこととして、次の一日、一年の保育に生かしていく。

コロナの中で、こども 保護者 そして教職員が安全に生きていけるよう、そしてこどもたちにとってより良い保育を守れるよう日々を協力して臨みたい。

## 7. 学校関係者評価の実施と評価

令和3年3月に卒園近い年長児保護者を対象にアンケートを実施した。もみじ幼稚園の「教育目標」「根の教育」「保護者との連携、信頼関係の構築」の4つの視点から、もみじ幼稚園の教育活動への評価を問いかけたものである。このアンケートへの回答から在園保護者の満足度や改善点を見出し、「学校関係者評価」として位置づけるものとする。

<別紙> アンケート結果参照（実施日：令和2年3月 回答率：36名/51名 約70%）

### 総 括

アンケート結果から、回答してくださった保護者のほとんどが上記4つの視点に対する評価として「当てはまる」「だいたい当てはまる」との回答をしている。

以 上